



川崎小だより

福岡県重点課題研究 中間報告会

平成30年度より、道徳の教科化が小学校において全面実施されます。その先駆けとして、教科としての道徳の授業はどうあるべきか、昨年度より研究を積み重ねてきました。

11月10日（金）は、その成果を報告する会として、研究発表会（中間報告会）を実施しました。当日は、八女市内の先生方を中心に、近隣市町から約50名の先生方が参観されました。

各学級の子どもたちは、教師の質問に対して素早く反応したり、時にはじっくりと考え思考したり、登場人物の気持ちを役割演技で表現したり、主体的に学ぼうとする姿が随所に見られました。なお、来年度は、研究の3年目ということで、最終報告会としての研究発表会を開催する予定です。子どもたちの心を育むためにも、子どもを中心に据えた、学校—家庭—地域の連携を今後も深めていきたいと考えます。

第2回 かわさきよか祭

当初予定されていた10月29日（日）は、雨天のため中止となりましたが、11月4日（土）に山内水天宮を会場として、「第2回かわさきよか祭」が盛大に開催されました。

子どもたちの全員参加とはなりませんでしたが、オープニングとしての山内船太鼓、3、4年生のダンス、3～6年生の合唱、1、2年生のウォークラリー等、楽しく参加し堂々と表現する姿が見られ、大変嬉しく感じました。

当日は、川崎校区だけでなく他校区からの来場者もあり、地域のふれあいがより深まったのではないかと思います。また、川崎小学校の体育館では、文化作品の展示もありました。子どもたちの作品展示だけでなく、地域の方の趣向を凝らした大変素晴らしい作品もあり、見ている方々が感嘆の声をあげていらっしゃいました。

この「かわさきよか祭」の目的は、子どもからお年寄りまで老若男女が楽しくふれあうこと、「かわさき」の伝統文化、伝統行事、伝統工芸を多くの方に知ってもらい地域活動への理解を深め、活気ある「かわさき」にすることです。かつての子どもたちは、仲間と自然の中で遊びながら、あるいは、地域において近所のおっちゃん、おばちゃんから見守られながら生活、成長していく機会に恵まれていました。そういう意味では、この祭は、大変意義のあるものだと思います。

川崎校区まちづくり協議会及びかわさきよか祭実行委員会の皆様、大変お疲れ様でした。



図書委員が活躍した読書まつり

11月17日（金）5校時に読書まつりを実施しました。図書委員が司会進行を行い、多読賞の表彰や図書委員会のおし物、読書ボランティア「ぺえじ」さんによるお話がありました。

本年度、4月から10月まで最も多く本を読んだ、多読賞の低学年の部は2年生（201冊）、中学年の部は4年生（269冊）、高学年の部は5年生（193冊）でした。また、図書館内でのあいさつや礼儀が素晴らしかった、あいさつ名人賞は4年生のでした。

学校司書の森先生の話によると、それぞれの学年の貸出目標冊数は、ほぼ全員が達成しているそうです。今後は、更に冊数を伸ばすと同時に、質の高い読書（ページ数が厚い本、いろんなジャンルの本、調べ学習としての読書）をめざしてほしいと思います。

また、図書委員は、「ちいさなおうさま」のスクリーンシアターを披露してくれました。1人1人が本の内容を覚え、ゆっくりはっきり、強弱や抑揚を意識しながら楽しいお話をしてくれました。この日のために、昼休みも遊ばずに練習を続けてきた図書委員さんありがとうございました。

